

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】(3ユニット/1階)

事業所番号	2795800164		
法人名	有限会社 サンビック		
事業所名	グループホーム サンビック2		
所在地	大阪府大阪市平野区加美北1丁目22番29号		
自己評価作成日	令和3年10月31日	評価結果市町村受理日	令和4年1月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター		
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 FGビル大阪 4階		
訪問調査日	令和3年12月21日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所は毎朝の朝礼を1階、2階、3階すべてのフロア合同で行っており、朝礼時に参加職員全員で当事業所の「運営理念」と「倫理綱領」「身体拘束の要約」を唱和し、運営理念である「ご利用者様一人一人の人生が輝くように」を念頭に置き、一人一人の生活リズムを大切にしながら楽しい日々を過ごして頂けるように心がけています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

コロナ禍以前は、ふれあい喫茶へ出かけて行って近隣の方々と話し合ったり、幼稚園の園児との交流も行ったり、小学校へ出向いて行って高齢者介護についての寸劇等地域活動を行っていたが、現在は直接のふれあい活動は行っていない。しかし、幼稚園との遊戯や歌、お話をリモートで、互いに画面を通じて交流している。運営推進会議は2か月に1度、利用者及び家族の意見・要望、利用者の状況等資料を送り、リモートで会議を行い検討している。「少しの時間でもいいから会いたい」の要望に1階事務所に面接室を作り、アクリル板で感染対策を講じたうえ面会する機会を設け対応している。日常生活を家庭として過ごすため、担当制を取っている。担当者が中心になって、一人ひとりの生活歴を参考にしながら、普段利用者と家族として生活していく中で、利用者の思いを出来るだけ聞き取っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝朝礼で「運営理念」「運営方針」を読み上げ、職員全員で理念の共有をしている。	法人の運営理念「ご利用者様一人一人の人生が輝くように」の他に、事業所の地域に根ざした「・その人らしい暮らしを尊重します。・地域の方々と協同して支援します。」等々4つの運営方針を掲げ、毎朝唱和して理念や運営方針を確認した上で、その日の介護サービスに取り組むようにしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	現在はコロナの為、主治医の意見に従って、人が集まる場所には行かないようにしている。	コロナ禍以前は、ふれあい喫茶へ出かけて行って近隣の方々と話し合ったり、幼稚園の園児との交流も行ったり、小学校へ出向いて行って高齢者介護についての寸劇等地域活動を行っていたが、現在は直接のふれあい活動は行っていない。しかし、幼稚園との遊戯や歌、お話をリモートで、互いに画面を通じて交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の人々に向けてグループホームの説明を行っている。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議(現在はコロナの為書面)にて入居者様の状況報告を行い、困難事例について検討している。	運営推進会議は、利用者及び家族、民生委員等地域の代表者、地域包括支援センター職員、地域福祉活動コーディネーター、事業所職員等で構成されている。2ヵ月に1度、利用者及び家族の意見・要望、利用者の状況等資料を送り、コロナ禍の現在もリモートで会議を行い検討している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村担当者と日頃から連絡を取り、より良い協力関係を気付けるよう取り組んでいる。	加美北地区地域包括支援センターの担当職員や生活支援課の担当窓口へは、利用者の状況を報告したり日ごろのサービスのあり方について指導を受けるなど協力関係を築いている。地域包括支援センターの担当職員には、運営推進会議でも助言を貰っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	自由に出入り出来るようにし、身体的、精神的に拘束しないケアをしている。	身体拘束等適正化委員会を、2ヶ月に1回定期的に開催している。また、適正化のための指針は法人で作成し、全職員が理解している。玄関は安全のため施錠しているが、他は自由に行き来でき閉塞感はない。研修会は毎月フロア会議の中で行っている。コロナ禍の現在でも屋上に植物園があり、外気に触れる場所がある。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	現在はコロナの為、ネットで虐待について勉強し、日常的に身体の確認を行う等注意を払っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	金銭管理が困難な入居者様には「あんしんサポート」を利用してもらっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	しっかりと時間をとり、わかりやすく説明するようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	2ヶ月毎に運営推進会議（現在はコロナの為書面にて）にて利用者様や家族様の意見を聞き反映させている。	運営推進会議を可能な限り、リモートで行い利用者家族の要望も聞き出し、運営に反映させている。コロナ禍の現在、「少しの時間でもいいから会いたい」の要望に1階事務所に、アクリル板で感染対策を講じたうえ面会する機会を設けたり、利用者の「外出したい」の要望には、屋上の植物園で外気に触れるようにしていたが、緊急事態解除後は散歩も再開した。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的にフロア会議を開催し、職員の意見を聞くようにしている。	2週間に1回、フロア会議があり、いろいろな提案がある。業務改善に繋がる意見の他、利用者への対応の仕方や看取りの状況などがある。年に1回は個人面談の機会があり、どうい事業所にしたいか提案する機会がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個人の実績等を考慮し、昇給を検討している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員が定期的に研修を受けられるよう機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との勉強会、連絡会に参加していたが、現在はコロナの為、集まりへの参加は控えている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者様のニーズを理解し、安心して頂ける関係づくりに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族様が困っている事を理解し、より良い関係を築けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	見学、相談があった際、必要なサービスを見極め、説明するようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事などを一緒に行い、共に支えられる関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月、家族様宛に手紙を送り、生活状況を報告している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人や場所がある場合は、大切な部分を継続出来るように外出、外泊等をして頂いている。	コロナ禍で現在は出来ていないが、利用者本人が今まで関わってきた地域社会との関りを継続して行くために、馴染みの美容室や喫茶店、自宅等への訪問を、家族の協力を得ながら支援に努めている。利用者や家族の要望に応じて事業所のスタッフが対応することもある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士の関係を把握し、会話やレクを通じてコミュニケーションが取れるように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も引き続きフォローできるようにしている、		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人様の希望に添えるよう努めている。	日常生活を家庭として過ごして貰うため、担当制を取っている。担当者が中心になって、一人ひとりの生活歴を参考にしながら、普段利用者と生活していく中で、利用者の思いを出来るだけ聞き取っている。「自由に歩けるようになりたい」という思いを持っている利用者には、外出を中心とした歩行訓練を多く取り入れるようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族様や本人様から得た情報より、今までの生活環境等を把握するようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝礼、申し送りノート等で情報を共有している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者様の現状を把握し、その時最善のケアが出来るようにしている。	介護計画の期間は長期計画を6ヶ月短期計画を3ヶ月としている。日々の支援経過や、月々のモニタリングにより実施状況をチェックしている。変化が起きた時にはその都度、担当者会議を開き臨機応変に介護計画の見直しを行い、家族の同意を得る様にしている。家族等には利用者の状況を伝え、毎月意見要望を聞いている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	本人様の言葉や、気が付いた事を書くことによってサービスの見直しに繋げている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人様や家族様の状況に臨機応変に対応し、的確な支援が出来るように努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域ボランティア等を利用し手品や紙芝居等を取り入れていたが、現在はコロナの為に中止している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医と関係を築いており、適切な医療が受けれるようにしている。	事業所のかかりつけ医は毎朝7時に利用者の様子を見に来てくれ、24時間対応している。訪問は週1回あり、利用者は医療への安心感から全員がかかりつけ医の診察を受けている。家族で対応できない時には、他科受診も職員で対応する。週1回歯科衛生士と歯科医の訪問があり、口腔内のケアを行い適切な医療が受けられるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師と日頃から連絡を取り合い、すぐに対応して頂ける状態を作っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	医療機関と定期的に連携を取り、いざという時に備えている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化した場合の考えを聞くようにし、終末期の希望を共有している。	入居契約時に重度化した場合の説明を行い、同意を得ている。利用者の状態に変化があった場合には医師から病状の説明を行い、事業所で対応できること、できない事を伝え再度意向の確認を行う。利用者、家族はほとんど看取りを希望しており、毎月看取りについての研修を実施し、穏やかな最期を迎えられるよう準備している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアルを使い、ミーティングの時に勉強している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回火災訓練を行い、水害を含めた災害時の対応を学んでいる。	消防署の協力のもと、年2回の火災訓練を実施している。火災発生時には、ベランダか屋上に避難すれば消防が救出してくれると説明を受けている。コロナ禍までは近くのコンビニの店員が訓練に参加し、利用者をコンビニの駐車場まで誘導してもらっていた。災害時の備蓄品は水やカンパン、インスタント麺など1ヶ月分を準備している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーを損ねないような声掛けを心がけている。	倫理綱領を毎朝礼時に唱和し、一人ひとりの尊厳の保持に努めている。利用者と話するときには目線を合わせる、居室に入るときには声を掛けるかノックする、馴れ馴れしい言葉使いや強い口調にならないよう、職員はお互いに注意し合っている。不適切な対応が見られた時には、職員一人の問題として捉えず事業所全体の問題として皆で考えている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人様が自己決定出来るよう、さまざまな選択肢から選んで頂けるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の都合を優先せず、入居者様のペースに合わせたケアをしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者様の希望する衣類を着て頂く等、入居者様の意見を尊重している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	毎月のイベントとして「手作り食事会」を開催し、一緒に準備をしたり、片付けたりする機会を設けている。	業者から配達された食材で、ご飯と味噌汁は事業所で調理し利用者と職員と一緒に食事をしている。盛り付けをしたりテーブルを拭いたり、利用者のできることを行い現存能力の維持を図っている。イベント企画として、手作り昼食会を行っている。利用者からは焼肉や焼きそばのリクエストが多く、駐車場で炭火で肉を焼いている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	各利用者様の状態に沿った対応をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケア、義歯洗浄を行うようにしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	各利用者様の排泄パターンや習慣を活かして自立に向けた支援をしている。	利用者ひとり一人を担当制にし、その人の排泄パターンや行動、習慣をみて排泄の支援を行っている。座位の取れない利用者を除いて、日中はトイレでの排泄を行っている。夜間は布パンツをリハビリパンツに変えたり、1～2時間おきに確認しトイレ誘導を行うなど本人に合わせた対応を行い、失敗を減らすことで排泄の自立に向けた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	牛乳、冷水を飲んで頂いたり、ラジオ体操で体を動かして頂いたりしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	各利用者様の生活リズムを大切に、希望に沿ったタイミングで支援するようにしている。	利用者は週3回入浴を楽しんでいる。各フロアの浴槽はフロア毎に色を変えている。利用者は自分の入りたいフロアで入浴することができ、お湯もその都度入れ替え濁り湯、〇〇温泉と気分によって入浴剤を選べるようになっている。事業所では座位の取れない利用者が2名いるが、職員3名で介助し浴槽に浸かれるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人様の体調に合わせて休んで頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人一人の服薬ファイルがあり服薬ミスがないようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	各利用者様の得意なこと、好きなことを手伝って頂くようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望があれば時間調整を行い、一緒に外出する支援をしている。	新型コロナウイルスによる緊急事態宣言が解除になったので、散歩は再開した。1日1~2回近所の神社や公園を散歩し、近くのコンビニに買い物に行くこともある。屋上でガーデニングをしているので、花や植木の好きな利用者は屋上で外気に触れることもある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理出来る利用者様以外はあんしんサポートを活用する等の支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	フロアーの電話を自由に使えるようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	その日に合った温度調節をし、居心地良く過ごして頂けるようにしている。	近くの幼稚園児や職員が季節ごとに壁飾りを作り壁に掲示している。窓が大きく取ってあり日当たりが良い。事業所では新型コロナ対策として換気や消毒に関する独自のチェックシートを作成し、感染に留意している。混乱を招くような大きな音がしないよう、また適度な温度が保たれ居心地よく過ごせる空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	仲の良い利用者様同士で話ができるような座席の配置にしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みのある物を置く等、利用者様の好みに合わせたレイアウトにしている。	居室には事業所で準備されたベッドやエアコン、洗面台、タンス、防災カーテンの他に仏壇や家族の写真、自分で作った作品を飾り、落ち着いて過ごせるように工夫されている。自分でできる利用者は自分の居室の掃除を行っている。居室を間違わないようにするために入口に名前を張っていたが、利用者本人の写真を掲示することで間違うことが無くなった。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室や、風呂場、トイレがわかりにくい利用者様には目印を付ける等わかりやすくする工夫をしている。		